

福山大学における4年次 「調剤薬局実習」について

片山博和、吉富博則、中村明弘、五郎丸 毅

日本病院薬剤師会雑誌, Vol.33(3), 31-35(1997)
(*Journal of Japanese Society of Hospital Pharmacists*)

Evaluation of the community pharmacy practice for the 4th grade students of Fukuyama University

Hirokazu Katayama, Hironori Yoshitomi,
Akihiro Nakamura, Tsuyoshi Goroumaru

抄録 1994年（平成6年度）より開始した福山大学薬学部の調剤薬局実習（選択、1単位）について学生へのアンケート結果を基にその意義を考察した。調剤薬局実習の意義は服薬指導、薬歴の作成、医療保険請求業務など病院薬剤師との違いを身をもって体験できたという点である。厚生省が提唱している6年制移行時に行うべき6ヶ月の実務実習は、病院での臨床実習が主となるべきだが、医薬分業の進展を図るという視点を重視するならば、調剤薬局実習も取り入れるべきだと考える。